

SUNAC

50年度後期

報告書

- ① プリ冬山合宿
- ② 冬山合宿
- ③ オーレン谷
- ④ 常念岳
- ⑤ 大滝山
- ⑥ 中央アルプス
- ⑦ 南アルプス
- ⑧ 硫黄尾根から北鎌尾根
- ⑨ 白馬岳北方稜線

7. 冬山台宿

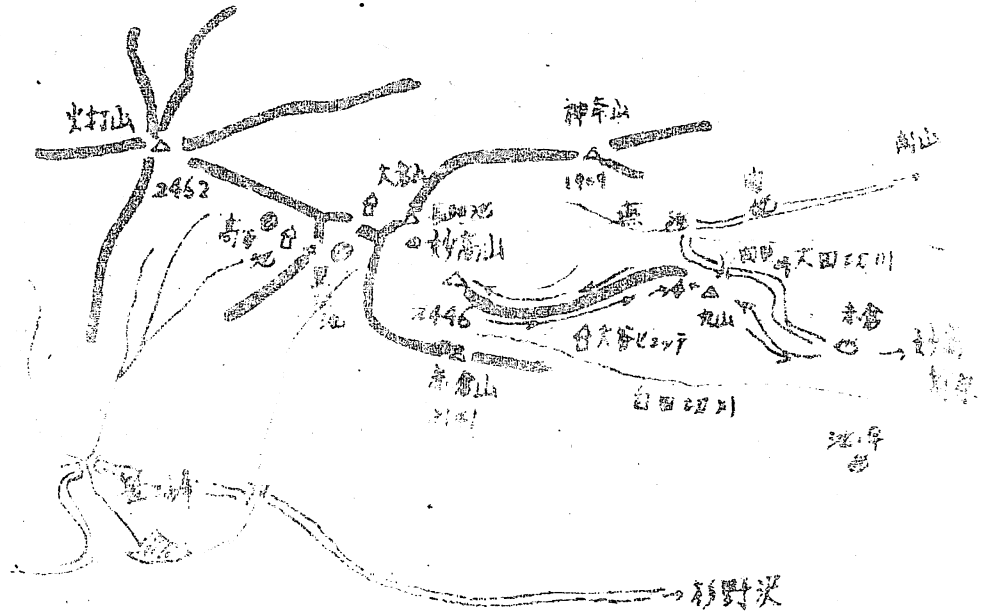
『妙高山』 2446m

1. 期日 '75 12/12(金) 13(土) 14(日) 15(月)

2. Member

CL: 宅和, SL: 川瀬, ESSEX: 福井, 中嶋, 裝備: 山崎, 瀬戸  
 気象: 栗田, 上田 古川, 西川

3. 概略図



4. 行動記録

12/12	長野	==	妙高高原	==	香倉	→	北沢リガ	→	前見リガ	→	前山リガ	→	北山の池
(金)	5:35		7:04	7:55		8:30	9:00	9:15		10:10		11:05	12:00
								70: 野計					
								積雪4cm 視界100m					

例年丸冬山は「ハゲ」などの数年 積例に付いたのが、今回丸冬山台宿を  
 毛鷲山で最大な多量の屋敷を対策に行きうのじ雪と岩。登攀は行かない  
 ということ。北信の身置にありながら 杖々が あり 登らなから 妙高山で  
 生活技術, ラッセル技術を中心とした 訓練を行なうことになった。  
 スクのため一週間延期になったのだが、今冬は例年より、雪が深く スキー場も  
 すでに滑走不能で、リガも全く通行していないから。  
 香倉からは、リガを登り、いったん前見トリに出る。やや急な雪原を直登  
 して北山へとつづく。妙高は山頂から北東へ伸びている支線を登る



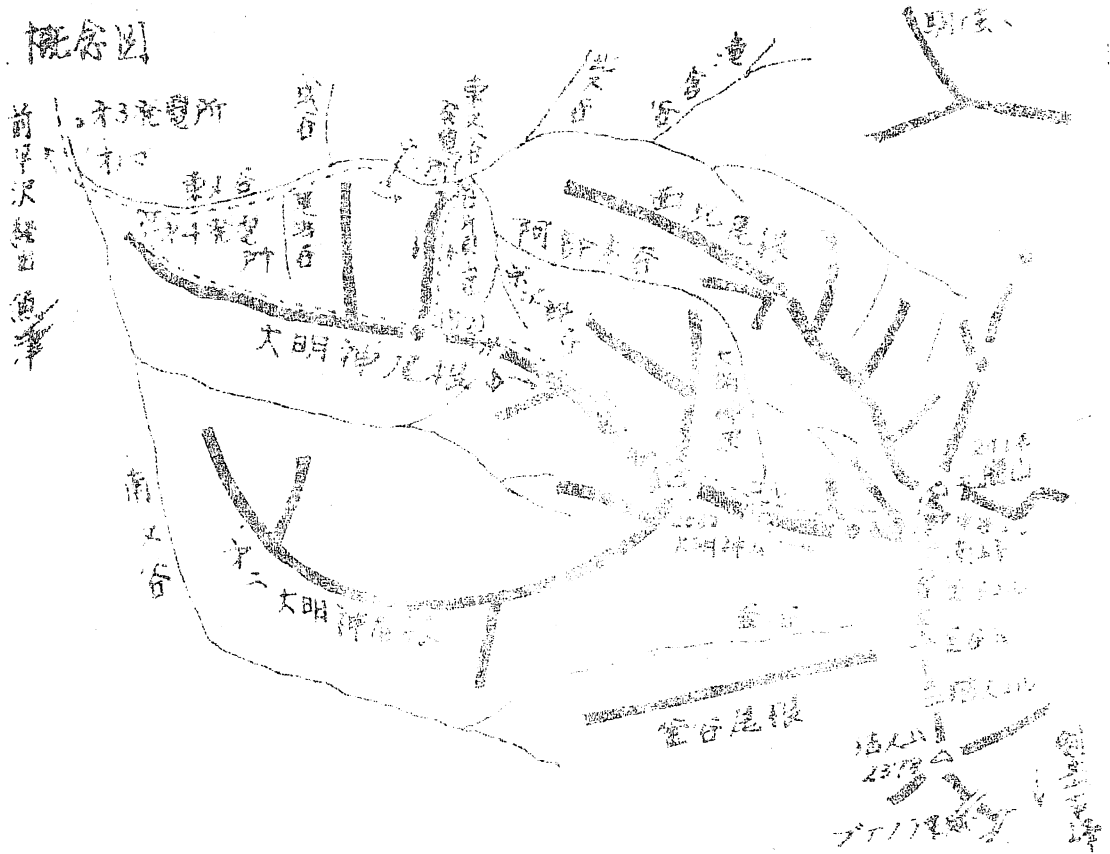
冬山合宿 剣岳北方 毛勝山 大明神尾根

'75 12/27 ~ '76 1/2 (6泊7日)

1. Member 10名

CL: 古川, SL: 宅和, 横瀬, 山本, 津野戸, ESSEN: 川瀬  
 福中(中嶋), 涉井, 会計: 川瀬, 医療, 気象: 土田, 實田  
 記録: 西川, 福中, 加賀瀬

2. 概念図



3. 行動記録

12/25, 26 長野 教育部室にて買出し準備

12/27 長野 → 直江津 → 魚津 → 前平沢 → 第2発電所 → 第3発電所 → 前平沢  
 (1) 5:20 10:10 12:00 11:40 3P 13:50

小屋の種別: ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺

15日分の食料。入山前、山小屋の管理員、この入山前一日目、登山小屋に  
 夫成であったが、魚津あたりでやはり小屋がなくなり、一昨年の登山小屋の  
 ありきで前平沢まで入山するつもりだったが、今年も登山小屋がなくなり、  
 前平沢まで歩く。途中登山小屋の記入し終りして、4Pで第3発電所手前の小屋へ  
 到着したが、この小屋の管理員は、山小屋の管理員









# 黄蘗谷右保

期間 11月22日 ~ 11月25日

L. 定和正彦 山本章

1日目(○)  
松本 → 葦山崎 → 白須 - 竹宇駒ヶ岳神社  
→ 五合目小屋 → 岩小屋

黒尾根は下から見たとおり、もうすぐ12日は思え存1)  
ほど雪が少なく、快調に登る。五合目小屋から岩小屋  
への道は荒れ放題で、お天巻工人も凍人で(キツたため、  
道をまちがひ、ヤブと岩小屋にたどりついたときは、ハハハだった。

2日目(◎ → ⊗)

岩小屋 → 坊主の滝 → 奥千丈の滝 → 伊せいの手前

氷下りと、すぐ上谷筋におりついた。うす氷が割れた河原まできょう  
に履んで川と、坊主の滝にかけた。滝は結氷しておらず、左岸を高  
まき、徐々に氷が増してくる沢筋を登ると二保にたいた。  
出合の滝は狭く、半分が凍って11月で、サイルをかけた左岸を川に  
登る。その上は、ゆりいスラブで、サイルも11月なので、適当に登  
て、2つ3つ滝をこえると、奥千丈の滝が現れた。滝といっても長大  
なナメ滝で、サイルを登ると、途中で必ず氷が落ちたり、  
不安定な体勢でサイルをかける。所々が氷の塊(スラブ)を  
アイゼンをかりかりいぶせて登る。このころから氷の状況もかなり  
よくなってきて、時々長距離の完全な氷の滝が、僅くを愛してゆく。  
しかし天気が悪くなってきた。視界が霧の上に雪をふって  
きたので、右岸のヤブに入ると、少し登ると上方にすさまじい  
氷の滝が見えたので、(少くともその時はそう思えた)  
少しもどり、おとした台地にツエルトを休む。

3日 ① TS → インセル → 奥のニイノ → 駒頂上 → 五合目小屋

朝おきると良い天気である。きゆうおさまじく見えた水陸は実際は  
たしかに二つのなりの水の流で 存んおたりそうだったから

アザライにて 沢筋にありて 登つていく いくつかの流をセイトイ  
登つていくと すじに 奥のニイノについた。ニイノ上の三段入流は  
下二段は左岸から巻いて 最上段だけ登る。これも二つと ひとつは  
たしかに流もなく、どんと人登つていて、表面がグラス氷にたしか  
雪と風にかゆかたなる黒い屋根にとび出した。

フワフワになつて 五合目小屋についた時はまだ下れた  
時間だったが、もういやになつて小屋の中ヒツエルトをはいて  
寝た。

4日 ① 五合目小屋 → 竹宇駒ヶ岳神社 → 白須 → 並崎

→ 松本

今日良い天気である。木休いと下つて マツといらまに  
白須についた。

高校生にもまらなる松本行きの電車にとびのつて  
ハイと ぶりおくと 宇土山が 大きく 大きく 見えていたの  
であつた。

感想

今までに身おほど ちかとした水に登つたこと 存んおたり  
ので 山勉強になりたつた。(山本)

アツモんじや

(昭和)





へ再びもどり、二の中でランバル。今夜は山本エリと夜ととも大野。

■ 2/25 (晴れ)

7時55分出発。下山の日大は晴れ。おとしい尾根へと出た。北はさからとさら尾根大もって忠実と下りまはる。道は道々つらつら  
いるから。木もあり死んでして。えらいスローペースで歩いた。太腿の  
下りからであつた。裸たはいて休むといふ瀬戸の井戸まで雪を拾ひ  
たり。この日は何となく元気が。下の家まで近くなる。5時  
くらいに尾根と別れ、左から右に折れて林道とおりた。あとはハ  
暗刻とあわてゆきゆきと歩きました。下りた尾根を忠実と下りた  
とが能率的な下りた原因下と思ひます。

※ 二晩ハバツの夜と日。下り日君の二コトホコト。結局  
バリバリに凍って主人と見捨てられ、何れかから登りつた  
とて有明名を六甲の山。片山君の手とあるといふこと  
です。蛇足ながら。

記. 簗田俊晴

※ (簗田君へ) アシタからあつたと丁汁を書きよるが  
一丁の。この記録。毎年していつかやるといふ  
事。ホント。 -

期間 75 11/22~24

メンバー C.L. 川瀬亨 (IⅣ) 箕田俊晴 (

行動概要

11/22 ①

松本 → 島 → 岩魚止手前 (21:00)

松本を午後に出たのでヘッドランプを付け行く。途中で野猿に会う。

11/23 ② ③

岩魚止手 → 徳本 → 檜見台と大滝山の間に

層はほとんどなく、おかげで、標高がさ山に電灯を装っていた。山行の目的を挙げ

11/24

大滝山、鉛筥山、小倉 → 松本

箕田君作成のシリカゲのシリカに苦しめられた。気分が悪く早々に下山する。

槍穂を見るには絶好なルートである。

中央アルプス縦走 第1/3

上田 西川 山本 中嶋

第④→① 松本 ~~伊豆~~ ~~松本~~ <sup>8:35</sup> 大樽小屋 <sup>12:30</sup>

コマクサと出るところは曇っていたが、しばらく晴れてゆき、爽快になった。夕刻の運ち人がかんぱしてくれたので、松本場まで歩かなくて済みました。夏道と夏のが、こうして歩き出し、雪は深、所以200m後、暫く歩いた、小屋へのついでに、小屋を歩かなくて済んだ。

第① 小室 <sup>12:31</sup> 西駒山 <sup>13:35</sup> 駒ヶ岳 <sup>13:40</sup> 宝剣山 <sup>13:45</sup>

朝から小雪がふっている。小屋からアベシをゆききまきしは、はくはくして、まてのラ、セルた。横線に出ると雪が少なくなり、休むのでアベシをゆききまきし、西駒山にたどり着く。この時、太陽が雲をたじまが、駒ヶ岳の山頂までが雪分出て、視界が悪くなる。このころから横線には、雪が降り、山頂は横線の雪が降り、山頂までが雪分出て、視界が悪くなる。このころから横線には、雪が降り、山頂は横線の雪が降り、山頂までが雪分出て、視界が悪くなる。

第① 小室 <sup>14:30</sup> 宝剣山 <sup>14:35</sup> 老姥岳 <sup>14:40</sup> 本峰登山荘 <sup>14:45</sup>

宝剣山の壁は、急な雪壁だ。しばらく雪壁を登る(から)ち、トウハースして、山頂(1)の岩壁に出る。老姥を登って、トウハースして、山頂(1)の岩壁に出る。老姥を登って、トウハースして、山頂(1)の岩壁に出る。老姥を登って、トウハースして、山頂(1)の岩壁に出る。

第①→② 小室 <sup>9:00</sup> 宝剣山 <sup>9:05</sup> 南駒ヶ岳 <sup>9:10</sup> 山屋 <sup>9:15</sup> 超百山 <sup>9:20</sup>  
 急ぎ山 <sup>9:25</sup> 五木山 <sup>9:30</sup> BS <sup>10:45</sup>

宝剣山の急な雪壁を登る。宝剣山の急な雪壁を登る。宝剣山の急な雪壁を登る。宝剣山の急な雪壁を登る。

稜線はクラストしているが、所々クラストの上に軟雪がのりついて  
 こわかった。在湿嶺とてえにうに、雪がやわらかくなる、二重峰、  
 木冠がわえトラバースきみに登り、頂上直下の雪壁を登る、ツクリ  
 の出ている所もあだが、こわかった。足音がくまれ、そのうち  
 谷中まで下りてきた。至る所までくまらぬ、ズボス下になる  
 ようになった。樹林帯にはいって大休止、1時間休息した  
 ツクリをがぶって、太いところをゴリゴリして、又谷小を登った。こ  
 りてこははれ、奥急丈は伊那がわをまき、急丈をキ、クステで  
 登った。急丈からえはし上までは、クラブラした長い長い稜線であ  
 った。このあたりから暗くなり始めてえはし岳から降り下りて、  
 トラバースを決める、行進は終点の川、1時45分であった。雪が厚くて  
 ツクリをがぶ、こ太いところを登り、セージと少量の下山  
 を受けた。全員股下がでんぐりかえり、膝のこして片頭痛はうた  
 そうになった。

3/5 ⊗ → ① BS<sup>9:00</sup> 下山<sup>12:30</sup>

下界はくそになつておそく起きる、みんな食欲がないので  
 太いところを登りてきて、2時ほどは雪がある、こ  
 りなつた、ドロの雪を歩いてくまらぬ、岩相へ下山

雪



# [南アルプス縦走] 三伏〜光

期間 76 3/13 ~ 24

メンバー C.L. 川瀬亨(工Ⅲ) S.L. 宅和正彦(工Ⅲ)  
瀬戸由則(工Ⅰ)

## 行動概要

3/13 ①

松本 → 伊那大島(12:00) バス → 鹿塩(13:00) → 塩川小屋(15:00)  
カバネ小屋(15:00)

小屋は快適。

3/14 ② → ③

塩川小屋(7:00) → 尾根の取付(8:00) → 山伏峠の小屋(12:00)

尾根上の稜道には薄く雪が残り、所々氷が張っている。

峠の付近は50cm程度の積雪。途中で1時間の休憩を取り、バタバタで小屋に付く。

3/15 ④ → ⑤ → ⑥

小屋(7:30) → 木谷山(8:10) → 観音堂内山のトランプス(9:40)  
塩見岳(11:30) → 山伏山荘小屋(15:30)

雪のため、暫く待つが、天気は良くなるだろうと、出発。

塩見岳は雪面が固くクラストし難いため、1年の瀬戸は、後で「すごく怖かった」と言っていた。

何故か、今日も「すごく疲れる」。

3/16 ⑦

塩川小屋(7:30) → 烏帽子岳(8:50)

→ 前小河内(9:40) → 小河内岳(10:30)

→ 大日影山(13:00) → 高山裏(15:10)

小河内岳 ~~●~~ 以後は雪がくさってアイゼンが  
雪ダルマとなる。トレースが少し残っている。

ラッセルも思った程ではなく、高山裏の小屋も快通。

3/17 ④ ガス

沈

3/18 ⑤ 風強く濃霧

沈

3/19 濃霧 7:00頃より快晴

沈。快晴の空を見ながら日回ほろこ。行けば良かった  
と残念

3/20 ① 風強し

高山裏 (1:00) — 荒川前岳 (7:30) — 赤石岳 (13:30)  
— 百向洞山の家 (15:45)

荒川へは途中まで尾道を行き、北面へ伸びている  
尾根に取り付く。尾根上は完全にクラストしている。  
所々岩が出ていて歩きにくい。これからは全くアイゼン  
の世界。小赤石、赤石の登りもきつり。赤石の避難  
小屋は埋まっていた。使用不能。雪の百向平は  
本当に百向四方はありそうな広さである。

3/21 ① 風強し

百向洞山の家 <sup>(7:00)</sup> — 竜岳 (9:00) — 聖岳 (13:00)  
— 聖平 (14:45)

中盛丸山までは、ラッセルが少々あったが稜線上  
は、またアイゼンをきませる。

聖の登りで、そろそろアイゼンのために足首が痛くなってくる。  
聖平の小屋で久し振りに人を見る、熊みたりなニわをうろたはる。  
たのたのたの あり話しがたたり、

23 ○

聖平小屋 (7:35) --- 上河内岳 (7:35) --- 茶臼小屋 (11:35)

連日のハードな行動に、大行意味なしの強い意見で  
今日は午前中に行動を終了。下山は高校生のパーティーが  
北河内と賑わうのを見て、優越感に浸る。

1/24 ② 強い風 濃霧

茶臼小屋 (6:30) --- 仁田池小屋 (7:10) --- 易老岳 (9:00)

--- 上二保 (11:30) --- 易老沢の上二保 (17:00)

天気は悪く視界はゼロ。トーストが残っていたので  
朝食を食った。易老岳からは易老沢へ下り  
道がたつた。先かき加細森山へ時支尾根がたつた  
あり、オスカタカを、わりとたつた。たつたかたつた  
うと易老沢と下る。易老沢は雪が残っていて  
下りやすい。

1/24 ③

上二保 (7:00) --- 易老沢 (11:30) --- 本谷口 (16:30)

下の二保までは易老沢の右岸へ尾根をトラバース  
する。沢通しても下れそうであった。

・ 遠山では北沢先輩の歓迎を受ける。

CL.の反省

入山前に 大きくメンバーが変り たっへんあゆめた。  
わ、たっへんだ! 結局 issen 装備とも全部変更して、  
なんとが全行程を終了。

アイゼンには 全く及ばず慣れ、瀬戸君も上手になりました。

# 硫黄尾根-倉線-北鎌尾根

○コース： 4. 西川義嗣(工務) 土田亨(精工) 山本亨(激動)

-期日： 1976年3月20日～26日

○行動回数：

① (要) 山中 - 大所 - 鳥渡集 - 湯原(要)

鳥渡集の下の山打原集の麓から北鎌尾根の山頂まで、7km程度の距離

<途中の山打原集の麓から北鎌尾根の山頂まで、約10km程度の距離

<山打原集の麓から北鎌尾根の山頂まで、約10km程度の距離

在硫黄尾根の山頂から北鎌尾根の山頂まで

② (要) 山中 - 大所 - 鳥渡集 - 湯原(要) - 北鎌尾根(要)

山中 - 大所 - 鳥渡集(要)

山中の山打原集の麓から北鎌尾根の山頂まで、約10km程度の距離

北鎌尾根の山頂から鳥渡集の麓まで、約10km程度の距離

鳥渡集の麓から大所の山頂まで、約10km程度の距離

大所の山頂から湯原の山頂まで、約10km程度の距離

湯原の山頂から北鎌尾根の山頂まで、約10km程度の距離

北鎌尾根の山頂から山中の山打原集の麓まで、約10km程度の距離

山中の山打原集の麓から鳥渡集の麓まで、約10km程度の距離

鳥渡集の麓から大所の山頂まで、約10km程度の距離

大所の山頂から湯原の山頂まで、約10km程度の距離

湯原の山頂から北鎌尾根の山頂まで、約10km程度の距離

北鎌尾根の山頂から山中の山打原集の麓まで、約10km程度の距離





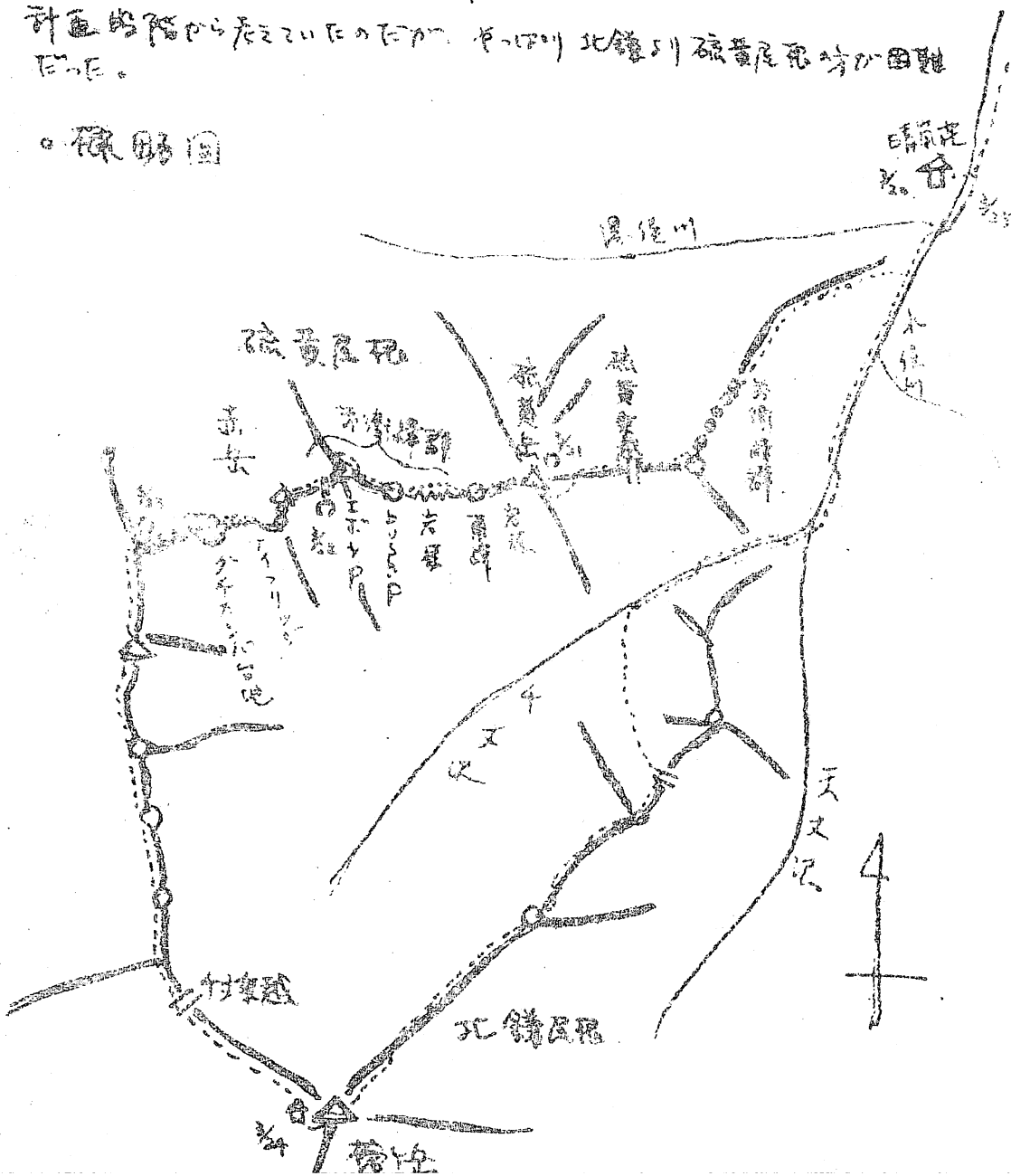
3/26 (曇り) 湯後 (9:00) — 湯 (12:30) — 葛 — 松本

出発した地点に着いて、車道を降りる。入山して下り始めると  
つらくなって寒い気分がトコトコする。了

◎ 冬山を引直した方の山行について。

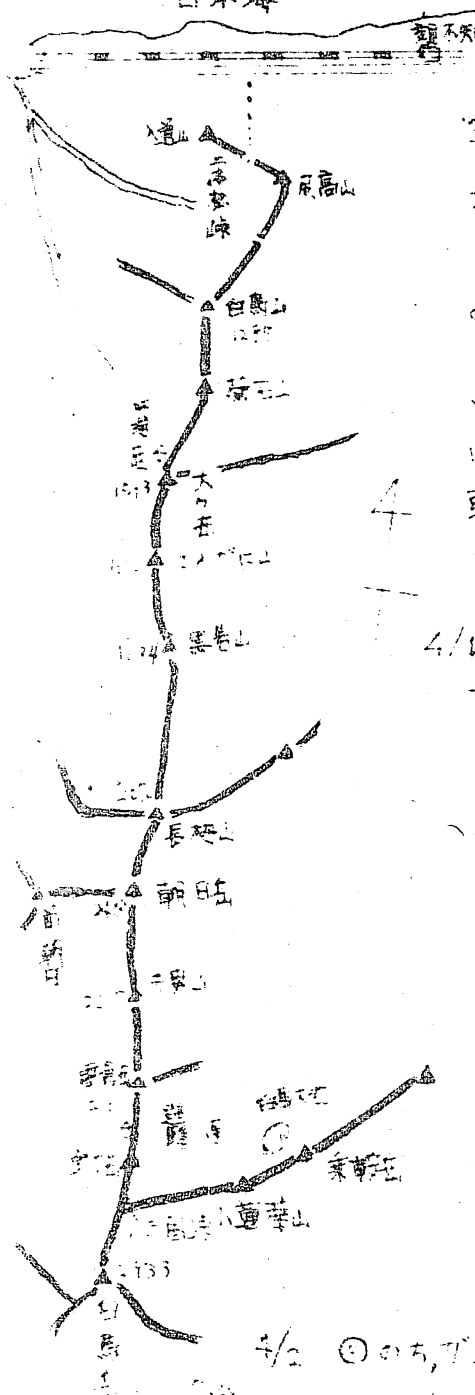
計画段階から見て、北麓川、北麓川、碓氷尾根、碓氷尾根が困難  
だ。

● 概略図





3/31 ~ 4/6 L 古川 中嶋 瀬戸



3/31 ①

12:00 松本 — 白馬大池 — 親の原 14:00 杵の森

杵の森でスキーの練習をするが登山靴  
の履きかたがまだつかない。中嶋も最初は  
楽しんでたがさすがにスキーは慣れていない  
が、徐々に滑るようになる。午後は  
はるか山へ、急はる、たぐい、滑り、左に  
転倒してリカネ。PM 2時ころにはお  
り食の準備に切りかえる。

4

4/1 ①

T.S. 天狗原 — 兼鞍山 — 白馬大池

スキーを別室まで取り、シューズ付けて滑り  
、又シューズを付けて別室から山頂へ行く。  
天気はよくほとんど晴天に近い。天気は汗  
が体から出てくる。天狗原から兼鞍  
の上へは、非常に滑る。滑るにつれて  
滑るにつれて滑る。滑るにつれて滑る。  
滑るにつれて滑る。

兼鞍から白馬大池までは滑る。滑るにつ  
れて滑る。滑るにつれて滑る。滑るにつ  
れて滑る。滑るにつれて滑る。滑るにつ  
れて滑る。滑るにつれて滑る。滑るにつ  
れて滑る。滑るにつれて滑る。

4/2 ①のち、ガス、強風(西又北西風) 視界 20~30m

T.S. — 小蓮華山 — 三國境 午前5時 右側にトラス — 針尾山

針尾山は地味な山、三國境まで出てくる。山頂は  
雪が積もっていたが、小蓮華のピークを過ぎたころから強く吹き始め、視  
界が下がった。山頂には雪が積もっていたが、三國境 午前5時 右側にトラス 針尾山  
は雪が積もっていたが、三國境 午前5時 右側にトラス 針尾山

4/3 ① L5と5①

T.S. ① 針倉 <sup>5.12</sup> - 雪倉避難小屋

雪崩の入り口が雪に埋まってしまっていて、袋の中の雪を掻きまわす  
するのだが、ういて開通。その間に、一休の趣、朝食(のこぎ餅、紅茶)を  
明るくなるのを待つ。出発。1時間と小屋に、入入口のドアのあたりが凍  
っていた。古川氏も完全に雪に埋まってしまった。雪崩の入り口は、  
て雪倉にスキーで行、糸川小屋で昼寝。今日の日を誕生日とした。

4/4 ①

小屋 <sup>5.12</sup> - 雪倉 <sup>5.12</sup> - 針倉 <sup>5.12</sup> - 針倉 <sup>5.12</sup> - 針倉 <sup>5.12</sup> - 針倉 <sup>5.12</sup>

雪倉の上から針倉まで、雪崩の入り口が凍り付いていて、雪を  
赤黒い雪を掻きまわす。針倉の入り口が凍り付いていて、雪を  
1時間、朝飯の準備と朝食の準備。針倉の入り口が凍り付いていて、雪を  
が午前中に針倉の入り口が凍り付いていて、雪を  
常に雪を掻きまわす。針倉の入り口が凍り付いていて、雪を  
ていはいよいよ針倉の入り口が凍り付いていて、雪を

4/5 ① 針倉 <sup>5.12</sup> - 針倉 <sup>5.12</sup> - 針倉 <sup>5.12</sup> - 針倉 <sup>5.12</sup> - 針倉 <sup>5.12</sup>

針倉の上から針倉まで、雪崩の入り口が凍り付いていて、雪を  
針倉の上から針倉まで、雪崩の入り口が凍り付いていて、雪を  
針倉の上から針倉まで、雪崩の入り口が凍り付いていて、雪を  
針倉の上から針倉まで、雪崩の入り口が凍り付いていて、雪を  
針倉の上から針倉まで、雪崩の入り口が凍り付いていて、雪を  
針倉の上から針倉まで、雪崩の入り口が凍り付いていて、雪を  
針倉の上から針倉まで、雪崩の入り口が凍り付いていて、雪を  
針倉の上から針倉まで、雪崩の入り口が凍り付いていて、雪を

4/6 ① 針倉 <sup>5.12</sup> - 針倉 <sup>5.12</sup> - 針倉 <sup>5.12</sup> - 針倉 <sup>5.12</sup> - 針倉 <sup>5.12</sup>

針倉の上から針倉まで、雪崩の入り口が凍り付いていて、雪を

本日下山と思うと背中の荷物を車に乗せ、延々と重い。中馬の道の舗装  
古川氏の針倉もあつたが、雪が降り、針倉の入り口が凍り付いていて、雪を  
天気が悪く、針倉の入り口が凍り付いていて、雪を  
途中急斜面のトラバステ、針倉の入り口が凍り付いていて、雪を  
下谷の方へ滑落。とまる。そのころ古川氏によって救出してもらう幸いに、  
これ無事に帰ってこられた。針倉の入り口が凍り付いていて、雪を  
スキーは、針倉の入り口が凍り付いていて、雪を  
針倉の上から針倉まで、雪崩の入り口が凍り付いていて、雪を

此  
前

# 春山の感想

とにかくほとんどすべての計画を消化、打ててきてよかった。冬山合宿に参加できながら、たこもめ、不安ぞ持てのそだ春山でしたが、危ない山行ができたと思ふ(いま)。しかしながら、白馬岳、北方稜線で足をいためた事は、まったく不注意によるものであり、夏の総走以後の悪い傾向のあらわれとしても反省すべき点です。

技術方面においては、アイゼンワークとパークスキー、等々としても免れ強になつた。体力面では、僕もくめてほとんど何人が体力不足だと思ひます。また、エッセイに於いても、とふたえがうらやましい(は)いがないと思ひました。他の部門にくらべても、あまり研究できていないところが、危ない時に食べられぬ様では困ります。全体として、春山は、良かったです!

## その他雑感

- スキー技術はほとんど習得できた。スキー山行の楽しさは、スキー技術の向上と共に、講習会から来た。
- 雪と雪洞をつかいた。
- 生活技術、特に温泉に於ける打直感、は、またまた、

中編

○ 相手の悪い図書館の「リテンキ」に豆息とかが入るが、社  
○ なんか印刷してきたころは、とてちう飛したくて、  
○ ぶかばさまで、今クでべとべとになりました!

